

DOCUMENT Eye

混合交通を観察する
series—158

自転車の保有台数は全国で8500万台以上とも言われ、2人に1台以上所有しているポピュラーな乗り物だ。だが、手軽な一方で自転車にかかわる交通事故は増加傾向にある。大半が対四輪車事故なのだが、対歩行者の事故も少なくない。自転車と歩行者が接触する事故は、最近5年間で約3倍に増加している(図)。自転車を利用する際に交通ルールやマナーが守られていない場合が非常に多い。

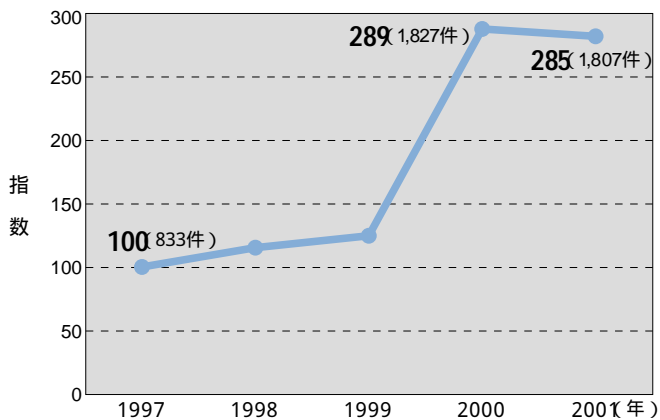
自転車横断帯の利用状況は?

● WHY



親子で横断歩道を利用する自転車。自転車横断帯を利用する電動車いすの姿も

図 自転車対歩行者事故件数の推移(指数)



1997年値を100とした場合
2001年の自転車対歩行者事故件数は駆動補助機付を含む
(出典:国土交通省「21世紀の自転車利用環境の実現を目指して」)

大人や高齢者の中には急な進路変更も見られ、自転車の交通ルール自体をよく知らないでいるようにみえた。母親の後を追っていた小学生は、途中から母親とともに横断歩道上を走行していた。

観察の結果、1時間で交差点を横断した自転車は347台で、自転車横断帯を利用したのが115台(33・1%)。横断歩道を通行したのが232台。このうち自転車を押して渡ったのはわずか3台だった。横断歩道上では自転車と歩行者が両方向から混在する無秩序な状況となり、いつ接触してもおかしくない状況であった。また、自転車横断帯を歩いていた歩行者が60人(電動車いすを含む)、さらに原動機付自転車2台、それぞれ観察された。

自転車に乗るには免許がいらない。だが、自転車は軽車両であり、交通ルールを守ることが事故を防ぐ基本となる。横断歩道周辺では、自転車と歩行者との接触、衝突が大きな事故につながりかねない。自転車に接触された歩行者が転倒して頭部を強打、自転車が加害者になって、実際に3700万円の損害賠償が言い渡されたケースもある。



このほか、携帯電話を使用しながら走る自転車、赤信号で渡った自転車も数台いた。また、横断中に右折・左折してきた自動車やバイクが横断者の妨げになったり、停止線を越えて横断歩道上や自転車横断帯上で信号待ちをするクルマも2台観察された。

自転車横断帯と横断歩道上で信号待ちするクルマ

横断歩道を押して渡った自転車わずか3台

● WATCHING

観察場所は東京・世田谷の国道246号駒沢交差点(片側3車線)。周辺には大学や住宅地が広がっており、子どもから高齢者まで自転車の利用者は多い。

観察の結果、1時間で交差点を横断した自転車は347台で、自転車横断帯を利用したのが115台(33・1%)。横断歩道を通行したのが232台。このうち自転車を押して渡ったのはわずか3台だった。



自転車横断帯が設置されている横断歩道で、自転車利用者の横断状況を観察した。自転車横断帯が設置されている横断歩道で、自転車利用者の横断状況を観察した。自転車横断帯が設置されている横断歩道で、自転車利用者の横断状況を観察した。

自転車の「自転車横断帯」利用状況(347台中)

自転車横断帯の利用	利用した(115台)		利用しない(232台)		計
	あり	なし	あり	なし	
左右確認	あり	なし	あり	なし	
小・中学生	1	10	1	20	32
高校生・若者	9	44	5	95	153
大人	4	44	1	95	144
高齢者	0	3	1	14	18
計	14	101	8	224	347

自転車以外の「自転車横断帯」利用状況(62件中)

左右確認		あり	なし	計
歩行者	小・中学生	1	7	8
	高校生・若者	0	25	25
	大人	0	16	16
	高齢者	0	10	10
	電動車いす	0	1	1
原動機付自転車		0	2	2
計		1	61	62

「小・中学生」「高校生・若者」「大人」「高齢者」の区分は観察者の見解1時間に観察できたものについて記載

自転車横断帯の利用状況を観察する 自転車横断帯を利用した自転車 347台中115台

● PROPOSE

自転車は「軽車両」 自転車横断帯を利用しよう

自転車に乗るには免許がいらない。だが、自転車は軽車両であり、交通ルールを守ることが事故を防ぐ基本となる。



このほか、携帯電話を使用しながら走る自転車、赤信号で渡った自転車も数台いた。また、横断中に右折・左折してきた自動車やバイクが横断者の妨げになったり、停止線を越えて横断歩道上や自転車横断帯上で信号待ちをするクルマも2台観察された。